

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年6月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1092700010
法人名	有限会社 櫻井商事
事業所名	グループホーム 月夜野の里
所在地	群馬県利根郡みなかみ町真庭363 (電話) 0278-62-3348

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成20年6月25日

【情報提供票より】(20年6月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 9 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8.25 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (6月6日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.3 歳	最低	76 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	月夜野病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは国道に面しており、協力病院が向かいにある。夜勤者は利用者の状態を定時に報告し状態を把握してもらっており、心強い体制が築かれている。ホームの窓からの風景は良く、電車が走る様子等が眺められ生活感や季節感のある環境である。職員教育の「職員心得」を作成し徹底を図りながら、職員のモラルの向上やケアサービスの質の向上を目指し努力している。施設長、管理者と職員は、「住み慣れた地域、なじみのある人たち、小規模、家庭的～」という運営理念に基づき、一人ひとりの生活の中で意向や希望を聴きながら、個別性ある生活を支えるように日々取り組んでいる。入浴支援は、職員側で入浴日を決めずに、希望やタイミングに合わせてゆったりと入浴を楽しみながら入れるよう支援に取り組んでいる。何事にも前向きな考えであることから、今後、より一層の期待をしたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価が初回であり該当なし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義や目的を職員に伝え、評価項目票を閲覧し意見を求め、施設長と管理者が作成をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催しており、事業所から利用者の状況、行事報告等を行い、参加者から意見や要望を受けて話し合いを行っている。参加者から地域交流の情報(保育園との交流等)や提案があり運営に反映させる取り組みをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに留意している。家族会や運営推進会議等で意見や要望を聴くように努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣者と散歩時に挨拶や話しをしたりしている。地域の行事(茂左右衛門祭り等)参加や図書館、買い物等で交流を図っている。保育園の協力を得て、園児との交流が計画されている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に利用者が地域の中で暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の運営理念を掲げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、会議や日々のかかわりを振り返り時に意識して話し合い、理念の共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣者と散歩時に挨拶や話をしたりしている。地域の行事(茂左右衛門地蔵祭り等)参加や図書館、買い物等で交流を図っている。保育園の協力を得て、園児との交流が計画されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を職員に伝え、評価項目票を閲覧し意見を求め、施設長と管理者が作成をしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催しており、事業所から利用者の状況、行事報告等を行い、参加者から意見や要望を受けて話し合いを行っている。参加者から地域交流の情報提供があり運営に反映させるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当窓口に向き相談をしたり、助言や指導を受けサービス向上に取り組んでいる。毎月町の開催されるケアマネ会議等に参加し意見交換も行っている。町への協力で「住民の見守り支援」に職員全員が登録をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等来訪時には、健康状態や暮らしぶりを報告している。状態の変化に応じその都度電話等で行っている。ホーム便りを毎月発行し利用者の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに留意している。家族会や運営推進会議等で意見や要望を聴くように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限にするために、職員間で何でも話し合える関係づくりを築き話し合うようにしている。また、職員組織体制や研修の充実を図る等の工夫を行いながら職員の定着化を図る努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は感染症、認知症実践者研修、認知症アカデミー、権利擁護研修等を交代で受講している。研修記録を作成し、会議で報告をしている。資料は閲覧をし、職員は情報を共有しケアの向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に今年度から加入し、同業者との交流や情報交換等の取り組みが計画されている。地域の同業者との情報交換も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族等に見学をしてもらい、お茶を一緒にし交流を図り雰囲気を知ってもらうようにしている。事業所から施設や病院、自宅等を訪問し馴染みになることや居室が空いている場合は、体験入居等も受け入れ、徐々に馴染めるように家族と相談の上で行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩である考えを職員は共有しており、方言やお焼き、おはぎ等の作り方、白菜漬け、洗濯物のたたみ方等で教えられることも多い。共に過ごし支えあう関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人との会話等の中から思いや希望を推し測りながら確認をするようにしており、家族等からも意見等を聴くようにしている。その情報を職員間で共有しながら日々のケアに活かすよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聴き、介護計画に反映させるようにしている。ケース会議で職員間で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。定期的見直しに合わせて、モニタリングを行い介護計画の見直しに反映させて作成をしている。	○	安定している利用者の場合も、月に1回程度は新鮮な目で本人、家族の意向や状況を確認すると共に、職員の情報や気づき、ケアのアイデアを出し合い、変化の兆しに予防的に対応していくための介護計画の見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望や状況に応じて、通院介助、買い物、理美容院、墓参り等、必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況変化に応じて家族、医師、事業所等が本人と家族が安心と納得が得られるための話し合いをしている。	○	重度化や終末に対する事業所としての指針を定め、事業所とご家族等の意向のずれがないように、できるだけ早期から話し合いの機会を作り、関係者全体の統一を図り支援されることが望ましい。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入職時に守秘義務について確認し個人の尊厳や個人情報等を「職員心得」に掲げて厳守するように教育している。日々のかかわりで利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、できるだけその日その時の気持ちの確認や個人のペース(起床や就寝等)を大切にした支援をするようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はデイサービスと一緒に厨房で作っている。昼食時は下膳やお茶を入れたり、テーブル拭きをしてもらっている。利用者は夕食の準備やテーブル拭き、食器を洗ったり・拭いたり、盛り付け等、職員と一緒にこなしている。職員は朝食のみ一緒に食べている。	○	暮らしの場面として買い物、調理、食事の後片付けなどを利用者一人ひとりの力を活かしながら、職員と一緒にこなすことが大切である。食事を1日の大切な活動の一つと考えて、食事づくりに関わりを深めて職員も一緒に味わうことができる工夫が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日や希望する時間に入浴ができる体制を取っており、利用者の希望の確認やタイミングに合わせて気持ちよく入浴ができるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干す、たたむ、リネン交換、掃除、テーブルを拭く、おしぼりを巻く、干し柿を作る、うどんを作る、習字、ぬり絵、脳トレ、花見、お茶会、バーベキュー、ドライブ、図書館に行く、買い物、日帰り旅行(バラ園、フラワーパーク等)、果物狩り等で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の気分、希望に応じて、散歩、ドライブ、図書館に行く、買い物、屋外で食事、お茶等をし外気に触れる機会を作り季節を肌で感じてもらえるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は職員が見守りを行い、安全面に配慮しながら施錠しないで、自由な暮らしを支援するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	通報システムの充実と消防署の協力を得て、年2回避難訓練、消火訓練を実施している。防災協力員体制の充実を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立てている。給食委員会を設置しており、利用者の希望を伝え反映をさせるようにしている。食事量、栄養バランス、水分量は記録し、職員は情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	二階の踊場に絵画を飾り、ホールに和室やゆったりとしている籐の椅子、観葉植物と季節の花を生け、テーブルに季節の花、書道、スナップ写真等を飾り、落ち着いた環境に配慮されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、衣装箱、兄弟の写真、整理ダンス、座布団、ポータブルトイレ(木製で椅子になる)、等が持ち込まれているが、全体的には馴染みの物が少なく家庭的な雰囲気を感じられない居室もある。	○	家族の協力のもとで馴染みの物を持ち込み、本人が落ち着ける家庭的な環境にしてほしい。また、職員もアイデアを出し合いながら居室づくりに取り組んでほしい。